パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報　　２０２５年１１月１日　２６６号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

レダの養豚事業に秘められた二大意義と未来への展望

【日陽園園長 岩澤春比古】

レダの養豚事業に6年間携わる中で、何故このプロジェクトがレダで必要なのかを強く感ずることがあり、ここに報告しようと思います。

一、養豚は私達にとり「最高の生きた教材」

レダ開発を最初に始められた文鮮明先生は、自然から多くの真理を学ばれたと言われています。豚というと、先ず汚いというイメージが湧いてきますが、実際豚に接し、よく観察してみると、綺麗好きで、その仕草が大変面白く、子豚は特に可愛い。子豚の出産を通して生命の誕生に立ち会った時の感動、小さな子豚達が母親のお乳を一所懸命に吸う姿、また屠殺し食肉として豚の尊い命をいただく時の感謝の思いなど、養豚に携わる青年のみならず、私達シニアにとっても学ぶことが非常に多くあります。

さらにここでは飼育にとどまらず、どうしたら利益を生み出せるかという経営の側面も学ぶことができます。肉質がよく健康な豚をどうしたら多く増やせるか？ 良い種豚の確保、健康で丈夫な母豚を増やし、最適な交配を管理するなど。飼料とコスト管理も大切となります。

私達とは姿、形は違うが、その習性、顔の表情など何となく人間とよく似ている豚は愛らしく、私達の愛の感性を育ててくれるだけでなく、事業経営を体験する意味でも大変価値あるプロジェクトとなっています。

二、「人類の食糧問題の解決モデル」をつくる

豚は昔からアメリカの開拓史やヨーロッパの植民地政策において大切な食糧源として扱われてきました。常に餌を探しているか寝転がる習性から、彼らは食肉として今までも私達に多くの恵みをもたらしてきました。

訪問者が豚と触れ合える、レダの人気スポット。

レダが目指すのは、これまでの飼育法とは異なり、パンタナールの豊かな自然を利用した自然放牧の高品質な食肉生産であり、そのブランド化を目指しています。

三、今後の課題とこれからのビジョン

現在の養豚プロジェクトをさらに発展させるために、最も重要かつ緊急性の高い課題は、「責任者の確立」です。事業全体を統括し、計画的に進めていく専門性を持った人材が不可欠です。今後は、まずこの責任者を早期に立て、プロジェクトのやり方や体制を確立することが最初の目標となります。これにより、今でも我々の豚肉の消費分を考慮すればほぼ黒字である経済状況を、本格的な「食肉事業」へと発展させることが可能となります。

「段階的な目標」

①3年間の確立期：責任者を立て、養豚の方法論や管理体制を確立する。同時に、糞を肥料にするなど、捨てるものがない「ビジネス」としての収益構造を明確にする。

②5年間の販売期：確立された体制のもとで、肉を安定的に生産し、販売する体制を構築する。この際、ブランド豚「チャンチョリンド(Chancho Lindo)」として市場に打ち出し、レダの経済の一翼を担えるようにする。

③10年間の拡大期：レダの最大の利点である広大な土地を活かし、大規模な養豚牧場へと規模を拡大する。単に数を増やすだけでなく（１００頭から５００頭、そして１０００頭も不可能ではない）、品質も追求し、訪問者が豚と触れ合える観光的な要素も兼ね備えた、モデル的な養豚事業を確立する。

広大な土地を活かしてモデル的な養豚事業を目指す。

種豚の選び方や交配の仕方、病気の対処といった専門知識を持つ人が責任者として加わることで、この大きな可能性を秘めた事業は、飛躍的に前進すると確信します。（二面、三面に関連記事を掲載）

LEDAプログラム参加者の歓送会：多国籍の訪問者たちと共に。10月16日

●宮脇方式で土地本来の木を混植・密植。10月14日

●メノナイトの開拓史博物館見学。10月10日

●農業体験でパパイヤを収穫。10月13日

●カナン牧場を訪問。10月16日

養豚現場10か月の歩みを振り返って

【チャパボラ佐藤さん】

私は2月から本格的に活動し始めましたが、3月中旬にかけて雨が続き、道路がぬかるみました。車が使えなくなってからは、養豚場まで徒歩や自転車での移動が増えました。

雨の泥道　雨の日に泥道を歩いたことは、強く印象に残っています。リュックを背負って、荷物を持って、1時間半くらいかけて歩くのですが、最初は「嫌だな」「大変だな」と思っていました。でも、そういう苦労を通して、「これは私を成長させるための環境なんだ」「感謝できる状況を神様がつくってくださってるんだ」と思えるようになったのです。

心の変化　この期間を通して、心の成長といいますか、人としての器が広がったような気がしています。色々な問題も、苦労もありましたが、それを通して「もっと良くしていこう」「もっと前に進もう」という気持ちが芽生えてきました。

子豚たちを人類に重ねてみる。

動物　特に印象に残っているのは、野生動物との出会いです。鹿とかワニとか、ペッカリーというイノシシに似た動物とか、アルマジロとか…毎日見られるわけではありませんが、時々出会えるのです。そういう出会いが、神様からの慰めのように感じられて、「ああ、神様は私たち一人ひとりを喜ばせたいんだな」と思えるようになりました。

暑さ　もすごかったです。当地の日中気温は40度を超すことも多く、直射日光が痛いくらい照りつけてきます。その中で、斧やナイフで若木を削るような作業があるのですが、本当に大変で、汗だらだらでやっていました。でもその時、「お父様はもっともっと苦労されたんだな」と思いました。自分のやっている事を通して、お父様の心情に少しでも触れられた気がしました。

お母様の歩み　についても、すごく感じるものがありました。泥道を歩いている時に「私のことは心配しないでください」と言われたら、どんな気持ちなんだろうって考えました。また子豚たちを人類に重ねてみて、「この子たちを立派に育てると決意するということは、どれだけ大きな責任なんだろう」と思ったりもし、そういう視点を持てる環境にいることが、ありがたいと思います。

私の苦労なんて、お母様の苦労を万だとしたら十か百程度かもしれない。でも、それを広げていけば、お母様の心情に通じると思うようになりました。そういう苦労や困難な状況、言葉にできない思いが、情を深めてくれる。そういう世界を、私はこの期間で少しずつ感じることができました。

私に残された期間で取り組みたいことを3点挙げます。

- 豚舎と柵の強化による安全確保（野生の肉食獣対策）
- 養豚場でのタロイモ生産の土台造り（豚の栄養管理）
- 豚の頭数管理と個体情報の資料化・引き継ぎ

これらを継承者たちに残すことで、少しでも現場の改善につながればと思っています。■

豚とともに生きる

【チャパボラ 土屋君】

レダに来て養豚の担当になってから、早くも3か月が経ちました。振り返ってみると、本当にこの仕事に就けてよかったと心から感じています。最初の頃から、豚と触れ合う時間そのものがとても楽しくて、日々の作業に喜びを感じてきました。

● 新しい発見がある毎日

もちろん、身体的には厳しい場面もあります。けれど、それ以上に豚たちが本当に可愛くて、毎日が楽しくて仕方がありません。仕事にも慣れてきて、豚たちのことも少しずつ分かるようになってきた今でも、飽きることなく、ますます愛着が湧いています。

豚は一頭一頭に個性があり、反応の仕方も異なります。その違いがまた面白くて、可愛くて、毎日新しい発見があります。最近では子豚も生まれ、ますますにぎやかになってきました。日本ではなかなか経験できないことばかりで、こうしてレダの大自然の中で養豚に携われることの素晴らしさを、改めて実感しています。

● 川でお風呂

養豚場には電気も水道もありません。しかし、見渡す限りの森と川に囲まれて、人工物のほとんどないこの場所で作業できることは、何ものにも代えがたい体験です。パンタナールの自然を肌で感じながら過ごす日々は、心を豊かにしてくれます。最近では泊まり込みの作業もあり、川でお風呂に入ることもあります。日本では考えられないようなことが、ここでは日常です。レダだからこそ味わえる自然の恵みを、全身で受け止めつつ過ごしています。

泳ぐ豚

● 自然の中で誠実に生きる

屠殺に立ち会うときには、やはり悲しさもあります。けれど、豚の命があるからこそ、私たちはここで生活することができています。お父様が掲げられた「南米摂理」の理念にも、豚たちは確かに貢献しているのだと思います。だからこそ「感謝の気持ちを忘れずに、豚の命をいただく」その思いを胸に、毎回屠りに向き合っています。

命と向き合い、自然とともに生きる。レダでの3か月は、そんなことを深く考えさせてくれる時間でした。これからも、豚たちとともに、自然の中で誠実に生きていきたいと思います。

豚のブランド化

【大野さん】

私は2022年1月からデザイン分野で携わり始め、同年12月頃からは養豚プロジェクトに本格的に関わり、現在まで約2年弱、この事業を見てきました。

現地では長らく養豚責任者が不在という課題がありましたが、ツアーメンバーの中から畜産に詳しい2名を見つけ、日本からサポートしたいという同じ志を持つ仲間を得ることができました。「諦めない限りは前に進める」という思いで、ずっと取り組んでいます。

● 養豚事業のビジョンとブランド化構想

このプロジェクトは、ただ豚を育てるだけでなく、経済的にプラスを生み出す事業化を目指しています。

その中で、挑戦的な取り組みとして、レダの水産部門で販売しているパクーの「ペスペランサ」のように、レダの豚もブランド化することを構想しています。

レダの豚を、高品質のブランド豚として育成し、確立していくため、特に現地の森で大量に収穫されているアセロラを豚に与え、「アセロラを食べて育った豚」として特徴づけられないかと考えています。将来的には、一頭一頭の豚がこの良質なブランド豚となることを目指し、現状維持をしつつ、一歩ずつ前進させていきたいと考えています。

● 豚と触れ合って得た精神的な気づき

養豚の仕事は、私に深い気づきをもたらしてくれました。最初は、野生のイノシシに近い鋭い顔つきに恐怖すら覚え、早く体験が終わってほしいと思っていました。

しかし、毎日触れ合っていくうちに、一頭一頭顔が違うことや、よく見ると彼らの「目がとても綺麗」で「まつ毛が長い」といった、一つ一つの魅力に気づき、愛着が湧いてきました。

この経験は、「人間が皆一人ひとり違うように、万物も同じように見えても、実は一つ一つが異なる存在である」という気づきにつながりました。また、大自然の中で、朝日を浴びながら豚たちと触れ合う中で、親子の愛や親の姿勢を彼らを通して感じ、神様の愛や創造の摂理を深く考えるようになりました。

日本の綺麗な環境で育つ豚とは異なり、現地で見る豚は泥だらけで野生味溢れています。しかし、その「本来の魅力」に触れることで、人間が作った綺麗さではない、自然が持つ本質的な力と恵みに気づかされました。これは、物質的には豊かでなくても、目が輝いている人たち(エスペランサ村の子供たちなど)の世界にも通じるものだと感じています。この貴重な経験を通して得たものを絶やさずに、プロジェクトを継続させていきたいと考えています。■

レダの電気屋さん 第28回

世代交代について

今、私は日本で書いています。

今回はパラグアイのアスンシオン空港から、日本の成田空港まで38時間かけての移動でした。

直通便はないので、乗り継ぎをしながら、待ち時間も含めての時間ではありますが、やはり長い時間がかかることに変わりはありません。

でも移動手段ということを考えたときに、昔は飛行機という移動手段はなかったのだなということを考えてみました。

そこで、移動手段に関して、「世代」という考え方がないのか、ChatGPTに質問してみました。すると左上の表のような回答が得られました。

もちろん世代が変わるごとに、移動に関する大きなイノベーションが起きていることは明らかです。

ちなみに、現在は第三世代から第四・五世代への移行期と考えられると思います。このように見てみると世代が変わるということは、大きな変革が起きているということです。

近年、世代交代という言葉が話題に出ることが多いですが、人の入替えという文脈で語られることが多いように思います。本来、世代交代という言葉に込められているのは、このような変革だと思うのですが、皆様はどうお考えでしょうか？（山崎茂章）

※ChatGPTによる世代分類

移動手段の世代（概要）

世代	主な特徴	主な移動手段	時代の目安
第1世代	人力・動物力	徒歩、馬車、人力車など	古代～19世紀前半
第2世代	蒸気動力の登場	鉄道、蒸気船	19世紀～20世紀初頭
第3世代	内燃機関の普及	自動車、飛行機	20世紀前半～後半
第4世代	電動化・高速化	電車、新幹線、EV	20世紀後半～21世紀初頭
第5世代	デジタル化・自動化	自動運転車、MaaS、ドローン	現在～近未来
第6世代	次世代・統合型移動	空飛ぶ車、ハイパーループ、宇宙移動など	2030年代以降（構想段階）

中井重幸氏が帰国

2009年以来、16年間に渡ってアスンシオン事務局の責任者を務められた中井重幸氏が、去る10月17日、帰国されました。

夫人の秀子さんと共にパラグアイに赴任して以来、夫婦で力を合わせ、レダプロジェクトのために、資材調達、経理、連絡調整、渉外、来訪者アテンド、病院等への付き添い等、多岐にわたる業務に多忙な日々を送られました。

中井氏は信頼の厚い事務局長であり、また温厚な人柄もあって、各方面の人々から慕われました。アスンシオンへの訪問者にとっては、最初に出迎えてくれるのが中井夫妻であり、最後に見送ってくれるのも中井夫妻でした。

健康上の理由で帰国を希望されてから何年も経ち、このたびようやく帰国されました。一足先に昨年帰国された夫人と共に、今後は日本で活躍されるでしょう。

中井氏の後任者は、島田賢二さんと石井鉄雄さんです。

中井重幸氏（右）が藤生事務局長（左）と和田前事務局長の出迎えを受ける。

島田家の子供たちより。

編集者のひと言

▼今号はレダの養豚プロジェクトを延々3頁に渡って掲載した。「人間教育」と「食糧問題」への根源的な解を秘めるような養豚は、レダなればこそ。神・人・万物の本来あるべき姿が見えてきそう。▼3人のチャパボラが綴る養豚体験記と構想。豚の眼と鼻、鳴き声、豚舎の香り、全てが心の糧になっている。彼らのピュアな感性が見ている世界を多くの若者に共有させたい。▼中井重幸さん、本当に長い間おつかれ様でした。まずはお体を癒してください。

LEDAクイズ

下記のホームページにある四択式クイズ。

●次のうち、レダにないものは？

●次のうち、レダにあるものは？

など、全10問です。

CHALLENGE!

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局
〒182-0021
東京都調布市調布ケ丘 2-15-1
ビリアベルデ 407
電話：042-449-0183
メール:office@asd-nsa.com
ホームページ:https://asd-nsa.com

パンタナール通信 電子版（Blog）

日・韓・西・英・ポの5か国語。スマホでもパソコンでもお読みいただけます。

LINE公式アカウント レダの日常・日本の非日常

レダ現地の様子、プログラム・イベント通知・参加者募集案内などを配信します。

←友だち追加はこちらから。